

寅さん歩 その14

東京に こんなところ-8

平野 武宏

首都東京は徳川幕府の江戸から明治維新へ、そして関東大震災・太平洋戦争の被災で壊滅から復興、1964年（昭和39年）の東京オリンピックによる街並み・交通網の再整備と時代と共にその姿を変えています。そして2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、更に近代的な姿に生まれ変わろうとしています。

「寅さん歩」で東京を歩き回っている寅次郎は「東京にこんなところもあるのだ！」と思わせる場所に出会い、感動しています。新シリーズとして取り上げ、紹介します。都民暦約4年の「寅次郎基準」で選んでおりますので、ご容赦下さい。最寄り駅は代表例です。

～ファッションの街 代官山に超日本的な建築物～

〔猿楽神社〕

渋谷区猿楽町 29-9

最寄り駅 東急東横線 代官山駅



旧山手通りのヒルサイドテラスのお洒落なビルの後ろに神社らしきものが見えました。

説明板によると『古よりこの地に南北に並ぶ古墳があり、北側に位置する大型墳を「猿楽塚」と呼称している。この名称

は「我苦を去る」という意味とのこと。6～7世紀の古墳時代末期の円塔と推定され、渋谷区内に残る唯一のもの。この地に移住の朝倉家は戦国時代からの旧家で無類の敬神家として、大正年間に塚上に社を建立し、一族をはじめ近隣在郷の信仰を集めている』と記載。
なんと代官山ヒルサイドテラスに古墳が残されていました。

【旧朝倉家住宅】

さらに旧山手通りを進むと、「旧朝倉家住宅（重要文化財）」があり、公開されています。（一般 100 円、60 才以上は無料）東京府議会議長を歴任した朝倉虎冶郎によって建てられた大正時代の和風建築です。関東大震災や戦災での焼失を逃れました。戦後の困難期に中央馬事会に売却、農林水産省に譲渡、近年まで経済企画庁の渋谷会議所として使用されています。2 階建ての家の中に上がり見学することができます。



春にはツツジ、秋には紅葉の美しい庭園です。

大規模な再開発でおしゃれでハイソなエリアへ変化した街に残された大正ロマンの重厚なたたずまいは貴重な遺構として重要文化財となっています。

次回は 東京に こんなところ-9 です。

平野 寅次郎 拝